

三 浦 勝 弘

三浦勝弘氏は長年にわたり、従来の測定機では困難であった精密金型、非球面レンズおよび切削工具など超精密部品の形状を非接触かつ高精度に測定できるステージ走査型レーザプローブ方式の非接触三次元座標測定機の開発および製品化に取り組んでこられました。さらに形状計測のみならず、測定項目を表面性状やナノメートルオーダーの真円度・直径計測などに広げられてきました。以上の功績は計測分野の発展に加え、精密加工分野への多大な貢献をもたらしました。

一方、形状・粗さに関する JIS 原案作成委員会委員や ISO TC213（製品の寸法・形状の仕様及び評価）委員を長年務められ、開発した上記の装置を三次元表面性状の非接触測定法として ISO に提案、ポイントオートフォーカスプローブとして国際的に標準化することに尽力されました。さらに同氏の活動は産業界にとどまらず、精密工学会を筆頭に、日本機械学会、砥粒加工学会、およびエレクトロニクス実装学会などの学会においても多岐にわたり活躍されています。

以上のとおり、三浦勝弘氏は、精密計測分野において産業界および学術界に対し長年にわたって世界的に多大な貢献をされてこられました。ここにその功績を称え、精密工学会賞を贈賞いたします。



略 歴

- 1982 年 神奈川大学機械工学科卒業
- 1982 年 三鷹光器(株)入社
- 1990 年 三鷹光器(株)製造課長
- 2006 年 三鷹光器(株)第一製造部部長
- 2008 年 ISO TC213 国内対策委員, JIS 原案作成委員（形状・粗さ）
- 2011 年 三鷹光器(株)産業機器開発室長
- 2016 年 ISO TC213 WG16 エキスパート
- 2021 年 三鷹光器(株)定年退職
- 2021 年 MATE (Metrology and Astronomical Technology Engineering) 代表
- 2022 年 砥粒加工学会フェロー
- 2022 年 中部大学客員研究員
- 2022 年 中央精機(株)技術顧問